

# むくのきだより



12月号 平成27年12月1日 港区立赤羽幼稚園長 小鹿原 賢

## 間 合 い

園長 小鹿原 賢

12月、師走。赤羽の緑が紅葉から落ち葉へと変わり、冬の本番となりました。落ち葉は、毎日主事さんや小学校の子どもたちが一生懸命きれいにしていますが、それでも追いつかない勢いで地面をいっぱいにします。先週、小学校の日光移動教室へ引率で行ってまいりましたが、雪の華厳の滝となり、大変寒い気候でした。東京も随分と寒くなりましたが、風邪をひかないように健康に気をつけ12月を過ごしていただきたいと思います。

剣道教室での活動の一コマです。私と対面し、「前・後・右・左」と動き、子どもは逆の動きをします。つまり、私が前に動いたら子どもは後ろへ、後ろへ動いたら子どもは前に…と一定の間を保ちながら、相手に合わせて動く運動を行いました。剣道でいう「間合い」です。剣道では、一足一刀の間合いで、竹刀を正眼に構え向き合い、立ち合います。間合いは、自分と相手の「間」のことで、近過ぎても遠過ぎてもいけません。「押さば引け。引かば押せ。」で間合いをとります。

「自分と相手の位置関係」は、まさしく剣道でいう間合いのことで、幼少のころから「自分と相手の位置関係」(=「間合い」)を意識して生活することは大切だと考えます。並ぶときに、前の友達を押す、体を密着させる、割り込むなどの行為はトラブルの基になります。着替えや靴を履くなどの行動は狭い所で行うと、友達と衝突したりぶつかったりします。間を空けたり体に触れないで並んだり、また、狭ければ空いているところへ移動して活動するなど、「自分と相手の位置関係」を保ちながら行動することで、友達との良好な関係を結ぶことができると考えます。剣道教室では、姿勢や礼儀作法だけでなく、自分と相手の位置関係(=「間合い」)も学ばせます。

人の前を平気で横切る。前にいる人が知っている人であるのに、追い越す時に一言も言葉をかけないなど、大人の社会でもよく見かけます。赤羽幼稚園の子どもたちは、剣道を習っているので「自分と相手の位置関係」は、小さい時から身に付けている、そのように育ってほしいなと思っています。

今年も残すところ一か月となりました。  
保護者・地域の皆様には様々なところでご協力をいただきました。  
ありがとうございました。来年申年も皆様にとって良い年でありますことをお祈り申し上げます。

